

ナシの病害虫の発生状況（6月中旬） 調査地点：中通り 20 園地、浜通り 10 園地

(1) ナシ黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年並であり、果実ではやや少ない状況でした（図1、2）。

「幸水」は、満開後 90 日頃までが本病への果実の感受性が高まる時期です。園内をよく見回り、発病部位の早期発見・早期除去を徹底しましょう。薬剤散布は、降雨前の実施を基本とし、散布間隔があきすぎないように実施しましょう。

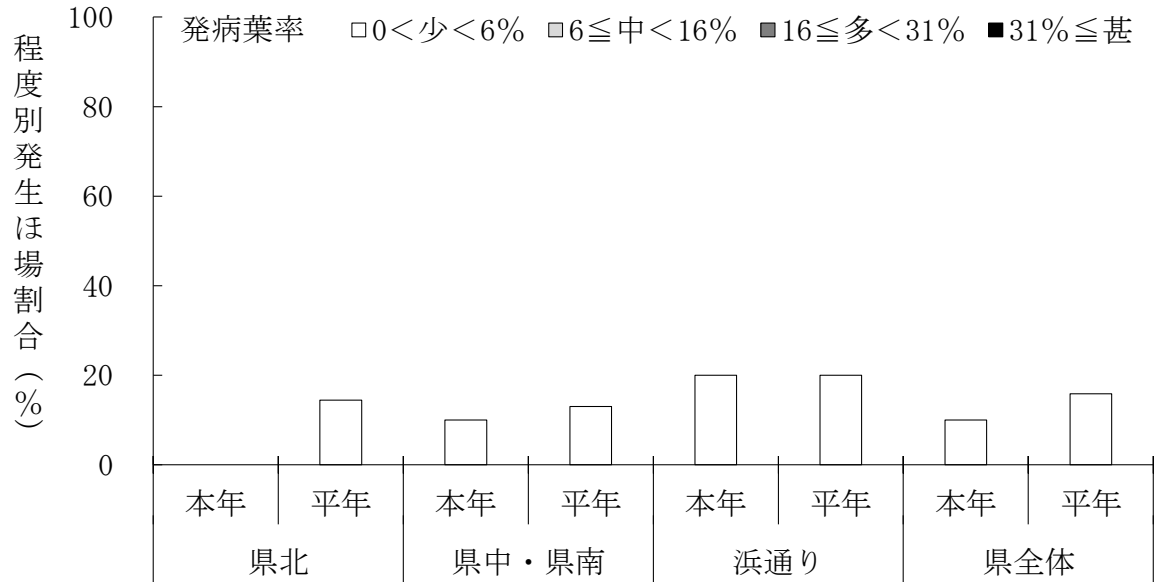


図1 ナシ黒星病の発生状況（新梢葉）

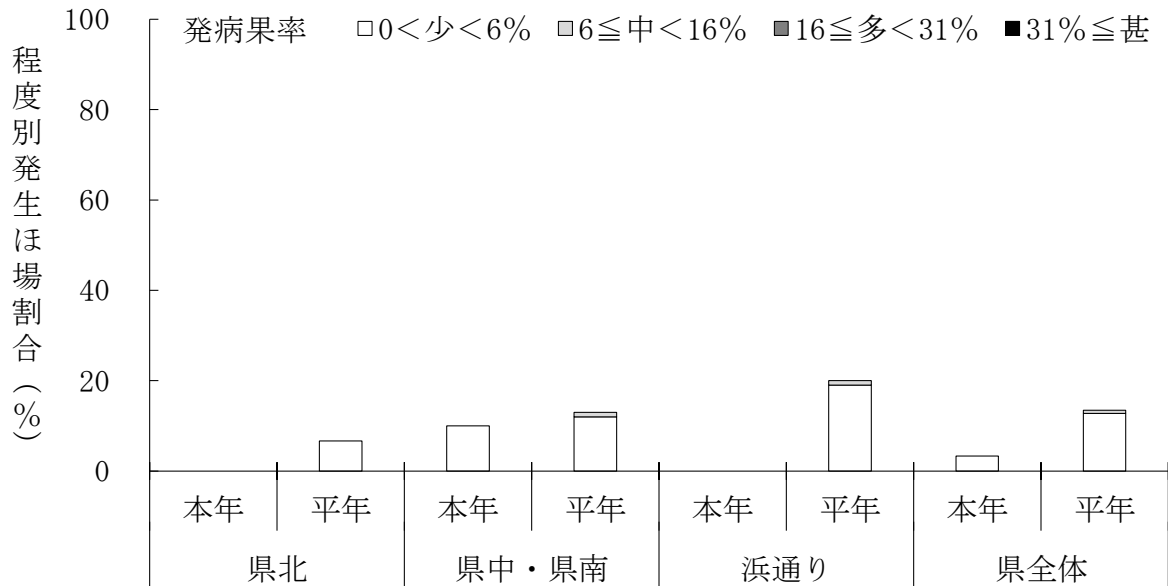


図2 ナシ黒星病の発生状況（果実）

(2) アブラムシ類

新梢寄生の発生ほ場割合は、平年並の状況でした（図3）。

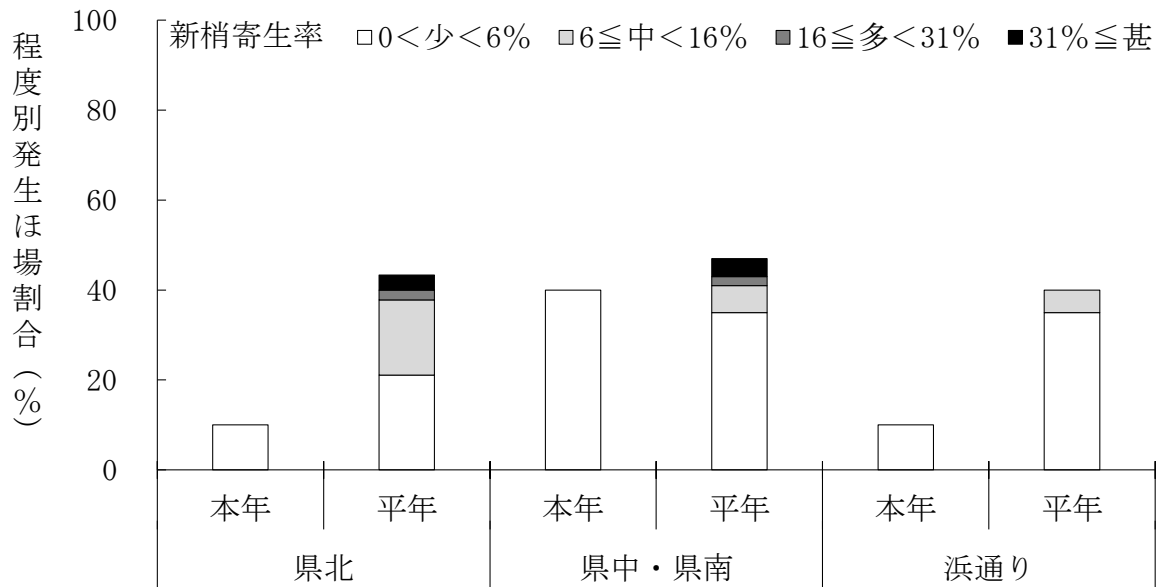


図3 アブラムシ類の新梢葉寄生状況

(3) ハダニ類

新梢葉寄生の発生ほ場割合は中通りで平年並、浜通りではやや低い状況でした。要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達した場合は、薬剤散布を実施しましょう。

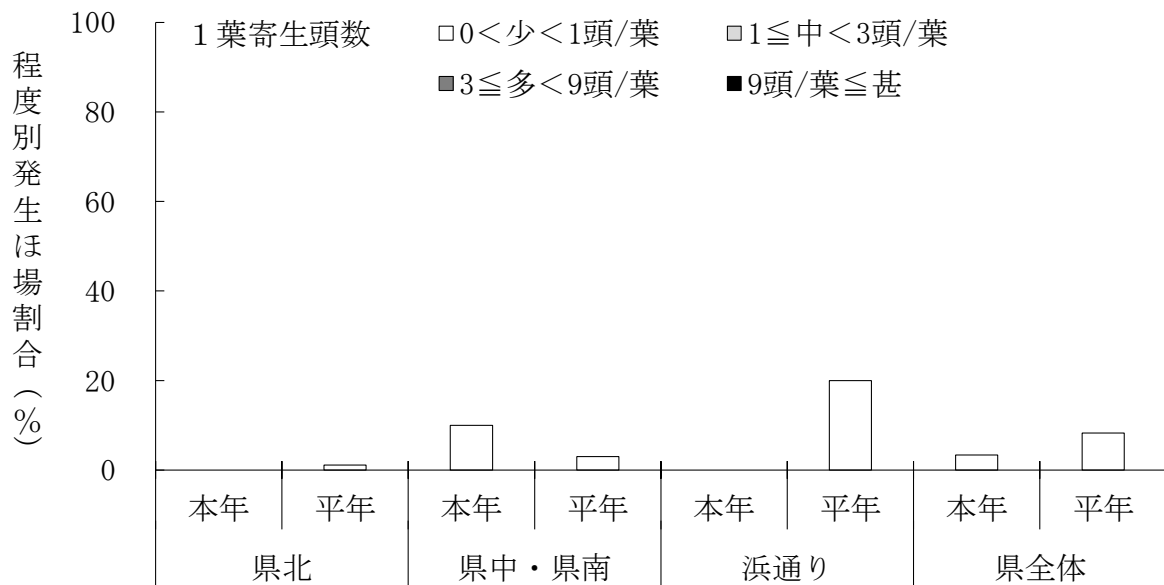


図4 ハダニ類による新梢葉の寄生状況

(4) 果樹カメムシ類

果実被害は確認されませんでした。

園地での飛来状況をよく観察し、飛来を確認したら薬剤散布を実施しましょう。